

平成22年度 第5回 北松中央病院評価委員会 議事要旨

- 1 日 時 : 平成23年1月6日(木) 14:30~17:30
- 2 場 所 : 佐世保市中央保健福祉センター 8階講堂
- 3 出席委員 : 池田委員長、江口委員、金子委員、久保委員、調委員、藤村委員、宮地委員、諸藤委員、吉永委員(押刈委員は欠席)
- 4 事務局等 : 千知波保健福祉部長、竹本保健所長、岩田次長兼保健福祉政策課長、酒井課長補佐、中尾企画係長ほか
東山理事長、山崎事務部長、松元看護部長、前田看護副部長、富本主任
- 5 議 題 等 : (1) 第3期中期計画(案)について
(2) その他

6 議事概要

◆開 会

千知波保健福祉部長から挨拶。

◆議 題

(1) 第3期中期計画(案)について

第3期中期計画案について、資料1, 2, 3により事務局から説明。

【委員の意見】

- 第3期中期計画を第1, 2期計画と比較してみると大きな変化はなく、現状維持という内容になっている。医師をはじめ限られたスタッフの中で医療を提供していくということで、苦渋の計画ではないかと推測する。
- ただし、第3期中期計画から具体的な数値目標が数多く掲載されたため、今後の評価が容易になっている。
- 「システム構築を行う」といった抽象的な表現を行っている部分がいくつか見受けられる。中期計画において具体的な取り組みが記述することは難しい項目もあることは理解するがいかかか。
(病院回答) ⇒ 「救急医療」、「待ち時間の改善」及び「インフォームドコンセント」の項目でシステム構築を行うという表現を用いているが、いずれも方策を検討している段階であるため、具体的記述ができなかった。可能な限り年度計画などで具体的な取り組みを明記していきたい。
- 回復期リハビリテーション機能について、現在、県北地域にはない機能であるため、ぜひ取り組みを進めてほしい。しかし、医師不足の中、急性期病院として救急医療に特化しつつ、回復期リハビリテーションを行っていくことは非常に厳しいと感じるがどのような構想があるのか。
(病院回答) ⇒ 回復期リハビリテーション病棟を称する場合、専任医師とリハビリスタッフの確保が必要であるが、専任医師の確保が困難である。よって、亜急性病床を増床し、その中で回復期リハビリテーションの機能を向上させていきたい。

○ 医療スタッフの人材確保について、中期目標ではスタッフの教育体制、診療環境の向上、育児支援の充実と記載されているが、それに対する計画はないのか。

(病院回答) ⇒ スタッフが就労しやすい職場環境を整えるため、平成22年度から10年間休止していた院内保育所を再開している。

○ 保育所運営などでスタッフの確保・維持のために努力しているのであれば、その機能の維持について記述すべきである。

(病院回答) ⇒ そのように対応する。

○ 医療スタッフの人材確保の目標で、平成25年度には内科医・外科医の各1名の増員、看護師6名の増員となっている。地方では医療スタッフの確保が厳しい状況だが、これは希望的な目標か。

(病院回答) ⇒ 今後、本院が救急医療の提供を続けるためには、医師の増員を行わなければ困難である。医師・看護師確保について、独自で奨学制度を創設しているほか、いくつかの方策を考えており、厳しい目標ではあるが達成に向け取り組みを進めていく。

○ その奨学制度について、計画に記載されていない。自主財源を用いて取り組んでおり、大いに評価できる項目である。例えば、最終年度の目標値が必ずしも全部達成できなかったとしても、病院として、そのような努力を行っているということで評価に繋がっていくと考える。

(病院回答) ⇒ 追加掲載するよう対応する。

○ 救急医療について、平成22年度の実績において、医師が減少する一方で救急車搬送数が増加し、かつ救急外来患者数と時間外外来患者が減少している。病院の努力で救急搬送の受け入れの増加につながったとともに、軽症のウォークイン患者が減少した結果と見ている。この病院が、当該地域にあって果たすべき役割を確実に実施しており、非常に評価している。

○ 平成21年度実績評価の際も話題になった特定健康診査の実施について、計画では実施に向けた体制整備に留まっている。市としては市が設置する病院ということで当然取り組んでほしい事項として中期目標に掲げていると考えるが、病院の実態と乖離しているようである。

特定健診について、事務局は当該地域における対象者数をどう捉え、また病院はどのような体制が整えば実施可能と考えているのか。

(事務局回答) ⇒ 江迎町及び鹿町町のうち40～74歳で住民記録のある住民が対象者で、そのうち本市受診率の目標値が50%であるため1,227名となる。ただし、集団健診等により受診した方を除くと120名程度が未受診者であり、ここを病院で受け入れてほしいと考えている。

(病院回答) ⇒ 医師充足率が厳しい状況で、急性期病院としての役割を果たしながら健診業務を行えば、医師の疲弊につながるため現在のところ対応できていない。少なくとも充足率9割を超えなければ、その対応は困難である。

○ 予防医学の重要性は理解しているが、臨床に集中する体制をとっている病院に予防医療まで実施させようとするものであり、現状の体制では非常に難しい。いつまでも特定健診の話題が消えないことが病院の負担にならないよう、他の医療機関と役割分担できるのであれば他に任せてもよいと考える。しかし、北松中央病院での実施が必須ということになれば、もう一度事務局で検討すること。

- 収益の確保と費用の節減において、資源の有効活用により収益を確保するという表現があるが、具体的に、例えば遊休資産の有効活用であるとか、明らかにしてほしい。

(病院回答) ⇒ 年度計画の中で明らかにしていく。

(委員会意見のとりまとめ)

上記意見を集約して書面化し、確認の結果、評価委員会意見とすることを確認。

(今後の手続き)

今回提出された意見は、病院において検討のうえ計画書を必要に応じて修正し、その後、委員長と事務局で修正案の確認を行うこととした。

(2) その他

資料4により、来年度の評価委員会のスケジュールを確認した。

7. その他

事務局より、池田委員長が今年度をもって長崎県立大学を退職され、伴って評価委員会委員を退任されることを報告した。

以 上